

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・児童・保護者・地域のいずれにおいても、概ね高い理解が得られている。しかし、児童・保護者・地域の一部には意識の低さが見られ、特に「学校目標や方針を知らない」と回答した保護者が2割に達した。また、児童においても1割が努力をしていないことが、今後の大きな課題である。</p>
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>保護者に対しては、学校・学年だよりや懇談会等で定期的に目標を提示し、理解と意識の向上に努める。児童へは、目標を分かりやすい言葉で伝え、定期的な振り返りを通して自らの成長を実感できる場を設ける。また、地域に対してはホームページを充実させ、教育活動の積極的な発信を図る。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員が学校目標を深く理解し、一丸となって取り組む姿が結果によく表れている。児童も自身の目標に向かい前向きに努力しており、その成長は心強い。一方で、保護者の2割が目標を「知らない」と回答した点は、情報が十分に届いていない面もあり課題と言える。今後は、各種だよりや懇談会、ホームページなどを通じて、学校の魅力をさらに分かりやすく伝えていくことを期待したい。学校・家庭・地域が手を取り合い、温かな一体感がより一層高まっていくことを期待する。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員、児童、保護者、地域ともに肯定的意見が85%以上となった。多くの児童が学級で安心して過ごすことができ、教職員も児童理解を深めながら学級経営をおこなっているといえる。しかし、否定的意見も少数いることから、不安を抱えている児童と向き合いながら学級内、学校内での居場所づくりを推進していかなければならない。</p>
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学級内で不安を抱えている児童が少数いることから、日々の生活や学校生活アンケートでの変化に早期発見早期対応しながら、学校、学年で組織的に対応していく必要がある。また、学級での特別活動、特別支援教育、道徳の3つの「とく」を更に充実させていきたい。</p>
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>児童の8割以上が学校生活を楽しいと感じ、保護者や地域からも高い信頼を得ている点は、教職員の日頃の尽力の賜物であり高く評価する。一人ひとりの良さを伸ばそうとする姿勢が、家庭や地域にも着実に伝わっている。一方で、学級内に不安を抱える児童が少数存在し、教職員自身もその対応に責任を感じている様子が伺える。今後は、アンケート等の活用による早期発見・早期対応を組織的に継続し、児童一人ひとりが安心して居場所づくりをさらに推進してほしい。地域と共に、全ての児童が自分らしさを發揮できる環境が整うことを期待する。</p>
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童の「そう思う」が、教職員や保護者よりも多いことから、児童は肯定的に学習に取り組んでいる。全体として「だいたいそう思う」も含めると約9割以上の肯定的な考えが多い(わからないを除く)。自分の考えをうまく発表できなくても、他者の考えを聞いたりする場面を意図的に学校全体で取り入れていたり、隣の子に相談しやすいコの字の座席配置の定着によるものだと考えられる。</p>
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。		<p>課題解決への方策</p> <p>苦手意識がある児童への手立てが必要。一人残らず学習に取り組む、発表することの楽しさや友達の意見を聞き、考えを深められる良さを実感させる授業づくりをしていく。そのためには児童が安心して学習に参加できるよう、ペアや小集団での話し合いを取り入れ、段階的に発言の機会を広げるとともに、聞く姿勢や考えを尊重する学級経営を行う。</p>
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>対話的な学びに対し、保護者の96%が肯定的である点は特筆すべき成果である。コの字型の座席配置など、視覚的・環境的な工夫が児童の主体的な学習姿勢を確実に育んでいると評価できる。一方で、地域住民の回答において「わからない・無答」が14%見られる点は、授業内容が校外へ十分に伝わっていない現状を示している。今後は、学校公開での提示に加え、更に具体的な授業風景や児童の変容をホームページ等で積極的に発信してほしい。こうした発信を通じ、地域全体で子どもたちの学びを支え、見守る体制がより強化されることを期待する。</p>
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。		

藤 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>保護者の約9割、地域の約8割から高い評価を得ており、ICTを活用したわかりやすい授業づくりへの信頼は厚い。教職員の自己評価も概ね高いが、活用スキルに差があることが分かる。児童も8割以上が端末活用に前向きだが、十分に活用しきれていない児童が一定数存在することが読み取れる。今後は、教職員や児童間の格差を解消していくことが課題である。</p>
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		<p>課題解決への方策</p> <p>児童がICTで考えを深め、意欲的に学ぶ姿を大切に伸ばす。活用しきれていない子へは、個別の支援や操作の工夫を徹底し、誰もが安心して学べる環境を整える。一方、教師間のスキル差を埋めるため、互いの実践例を学び合う研修を充実させ、組織的な指導力の底上げを図る。</p>
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>児童が端末を使って考えを深め、意欲的に学ぶ姿勢に対し、保護者や地域の多くが肯定的な評価を寄せている点は大変喜ばしい成果である。学校全体でICTを活用した授業づくりに努め、信頼を築いていることがよくわかる。今後は、「先生同士で活用のアイデアを教え合い、誰もが上手に使いこなせる体制」を整えるとともに、児童への個別支援を継続してほしい。また、教職員や保護者がICTを長時間利用することによる弊害やネットリテラシーを理解し、子供たちを支えていくことも大切である。こうした地道な取り組みを通じて、全ての子供たちが安心して自分の考えを広げられるような、質の高い学びの場がさらに発展することを期待したい。</p>
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員は、交換授業があり担当していない教職員が行事以外で体力向上に関わる機会が少ない。学習指導要領の理解の不足や教科書がないこと、また、技能教科であることにより苦手意識を持つ教職員も多い。地域や保護者の満足度は高い。児童の課題としては、2割近くが体力をつけようと努力できていないことが挙げられる。</p>
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>教職員間で体育の指導法や児童の様子を共有し、〇〇大会などの学年行事にも積極的に取り組んでいく。子供たちが進んで運動に親しみ、遊びながら体力を高めていけるような環境や仕組みづくりを一層進めたい。これらの活動を通し、業間休みや体育の授業等に全校で計画的に取り組んでいく。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>体育の授業や運動機会の確保に対し、保護者・地域の約9割から高い評価を得ている点は、学校の組織的な取り組みの成果と言える。児童の8割以上も体力向上に向けて前向きに努力しており、運動への意欲が着実に育っている。一方で、教職員の自己評価が他項目より低く、体力向上に関わる機会の少なさを課題視している点は注目に値する。今後は学年行事との連携を深め、遊びながら体力向上を図れる環境や仕組みを整えてほしい。専門的な指導の工夫を継続し、全校を挙げた体力向上の推進を期待する。</p>
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員のおよそ9割、保護者のおよそ8割が肯定的に捉えている。保護者のおよそ1割がわからないと答えているので、否定的な意見は1割である。教員は1割の否定意見があるということにも注目しなければならない。また、児童の2割弱が否定意見であることも注目したい。先生やお家の人に相談できないと考える子どもたちにとどのような働きかけができるかが課題である。</p>
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。		<p>課題解決への方策</p> <p>いじめやトラブルが発生した際は、速やかに状況を共有し、その後の経過を丁寧に伝えるなど、家庭と連携した長期的な見守りを徹底していく。また、先生や親に直接相談しにくいと感じている児童がいることを重く受け止め、日頃の何気ない関わりを大切に。更に、本校独自の相談フォーム「にこにこボックス」等の相談窓口について、誰でも安心して活用できるよう定期的に周知を行い、児童の小さな変化やサインを早期に察知できる体制を整えていく。</p>
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>いじめやトラブルに対し、教職員の約9割、保護者の約8割が「組織的・協力的に対応している」と肯定している点は、学校への強い信頼の表れとして高く評価する。家庭や地域との連携を重視する姿勢が、安心感につながっていると言える。一方で、児童の約2割が否定的な回答をしており、周囲に相談できないと感じている児童が一定数存在する点は重く受け止めるべきである。今後はトラブル発生時の迅速な情報共有と長期的な見守りを徹底し、小さな変化を早期に察知する体制をより強固にすることを望む。一人ひとりに寄り添った温かな関わりが継続されることを期待したい。</p>
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。		

藤 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>39%</td></tr> <tr><td>②</td><td>58%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>3%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	39%	②	58%	③	0%	④	0%	⑤	3%	評価結果についての分析・課題 教職員の自己評価は97%と非常に高く、児童の良さや可能性を伸ばそうと真摯に向き合う姿勢がみられる。地域からも同様に高い評価と信頼を得ている点は本校の大きな成果である。一方で、保護者の肯定的な意見は85%に留まり、教職員の熱意や具体的な働きかけが家庭まで十分に伝わりきっていない可能性が課題として見受けられる。また、児童の約1割に否定的な意見が見られる点も課題である。
	評価項目	割合														
	①	39%														
	②	58%														
③	0%															
④	0%															
⑤	3%															
児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>58%</td></tr> <tr><td>②</td><td>30%</td></tr> <tr><td>③</td><td>6%</td></tr> <tr><td>④</td><td>1%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>5%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	58%	②	30%	③	6%	④	1%	⑤	5%	課題解決への方策 教職員の高い意識や児童の良さをより確実に届けるため、デジタルツールや通信を活用し、家庭への情報発信をさらに工夫していく。また、一人ひとりの児童理解を深め、授業や行事を通してより多くの児童に成長の機会を設けていく。特に自己肯定感に課題が見られる児童に対しては、意図的な称賛や関わりを大切に、成功体験を積み重ねさせることで、学校と家庭が同じ視点で子供を支える体制を築いていく。	
評価項目	割合															
①	58%															
②	30%															
③	6%															
④	1%															
⑤	5%															
保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>24%</td></tr> <tr><td>②</td><td>61%</td></tr> <tr><td>③</td><td>7%</td></tr> <tr><td>④</td><td>1%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>7%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	24%	②	61%	③	7%	④	1%	⑤	7%	学校関係者評価委員会による評価 児童一人ひとりの良さを伸ばそうと真摯に向き合う教職員の姿勢は、自己評価の高さや地域からの厚い信頼によく表れている。児童の約9割が前向きに行動できている点も、教育活動の大きな成果と言える。一方で、保護者の肯定的な回答が他と比べて低く、学校の熱意や具体的な働きかけが家庭まで十分に伝わりきっていない可能性がある。今後は、通信やデジタルツールを積極的に活用し、児童の成長や学校での励ましをより丁寧に届けてほしい。家庭と学校が同じ視点で子どもを見守る体制が、さらに強化されることを期待する。	
評価項目	割合															
①	24%															
②	61%															
③	7%															
④	1%															
⑤	7%															
地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>43%</td></tr> <tr><td>②</td><td>48%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>10%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	43%	②	48%	③	0%	④	0%	⑤	10%		
評価項目	割合															
①	43%															
②	48%															
③	0%															
④	0%															
⑤	10%															

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員の肯定的な評価の割合が昨年度よりも下がっている。一方、保護者の評価では、「よい」の回答が微増となっている。このことから、個に応じたよりよい指導・支援を目指す教職員の思いが、厳しい自己評価となっていると考えられる。児童の評価では、否定的な評価が微増となっている。児童が自分の苦手なことなどを身近な人に相談しようとする意識を高めたり、その体制を工夫改善したりすることが課題である。また、地域の方の評価では「わからない」の回答が33%あることが課題である。</p>
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>教職員については、特別支援教育に関する研修の実施、情報提供などを積極的に進めていく。児童については、自分の苦手なこと等を周囲の人に相談することの大切さを指導・支援するとともに「みんなの気持ちにこころボックス」を利用することなども伝えていく。地域の方へは、本校の特別支援教育等の取組を知っていただくために、学校だより、HP、学校運営協議会等の機会を有効に活用していく。</p>
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>個に応じた指導や家庭連携について、教職員が自らに厳しい評価を課しながらも、個々の特性に寄り添い改善を続ける真摯な姿勢は高く評価できる。保護者の約7割からも肯定的な評価を得ており、学校の取り組みは概ね理解されていると判断できる。一方で、地域住民の33%が「わからない・無答」と回答している点は課題である。今後は、ホームページ等を活用して具体的な実践事例を積極的に公開し、地域における認知度を高める工夫を望む。児童が自ら周囲に相談できる意欲を育む働きかけも継続し、家庭や地域との信頼関係がさらに深まることを期待する。</p>
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>肯定的な回答は教職員が80%、保護者が80%弱、地域が95%程となっていた。保護者、地域が協力的で行事等への参加、地域の人材活用が進んでいることがわかる。地域の人材活用のハードル等、活用機会の増加・周知に課題があったが、昨年度より肯定的意見が増えている。また、職員の否定的意見や保護者のわからないの回答が少なくないので、年度ごとに活用場面を蓄積していく必要がある。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>教育課程の中に、地域人材が活用できる単元、時間等を蓄積し、次年度になっても同じようなことができるようにする体制を整えることが大切である。学校応援団を活用しやすいように、応援団の活用場面のリストアップを年度ごとに更新し、活用したいときにすぐに見つけられるようにする。HP等の活用により、ポイントが増加したので、これを維持、発展させていくように努めていく必要がある。</p>
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>学校運営協議会や学校応援団の活動に対し、地域の95%が肯定的である点は、地域人材を積極的に教育へ取り入れる姿勢の成果であり高く評価する。保護者・教職員も約8割が肯定しており、地域と連携した学校づくりが着実に進んでいる。一方で、一部に「わからない」という回答がある点は、活動内容や子どもへの効果をより広く浸透させる余地を示している。今後は地域人材が活用できる単元をリスト化したり、地域への協力要請を工夫したりする等、継続的な協力が得られる仕組みを構築してほしい。HP等での発信を継続し、地域と一体となった学校の姿がさらに発展することを期待する。</p>
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <caption>評価結果の割合</caption> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>30%</td></tr> <tr><td>②</td><td>55%</td></tr> <tr><td>③</td><td>9%</td></tr> <tr><td>④</td><td>3%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>3%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	30%	②	55%	③	9%	④	3%	⑤	3%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>「そう思う」「だいたいそう思う」が計85%を占めており、本校の働き方改革の目的や方向性について、多くの教職員が概ね理解し、前向きに受け止めていることが読み取れる。特に、40分午前5時間授業を導入し、放課後の余剰時間を確保している点は、教職員が「教科指導や教育の質向上に向き合っている」という実感を持つ一因となっていると考えられる。一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」が12%、「わからない」が3%存在することから、制度の目的や効果が十分に共有されていない層や、業務量の実感に個人差があることも考えられる。</p>
	評価項目	割合														
	①	30%														
	②	55%														
③	9%															
④	3%															
⑤	3%															
児童			<p>課題解決への方策</p> <p>まず働き方改革の目的と成果を教職員間で共有し、共通理解を一層深めることが重要である。放課後の時間を、教材研究、学年会、教育相談、生徒指導などにどのように活用しているかを具体的に可視化し、サンプルとして共有することで、効果を実感しにくい層の参考とする。また、業務の偏りや個人差を把握するため、定期的な業務点検や簡易的な聞き取りを行い、役割分担や業務整理を見直すことが求められる。</p>													
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>働き方改革を教育の質向上への基盤と捉え、教職員の8割以上が前向きに取り組む姿勢を高く評価する。特に午前5時間授業の導入による時間創出が、児童と向き合う時間の確保に繋がっている点は大きな成果である。一方、1割強の教職員が改革を実感できていない現状があり、業務の偏りや負担感の個人差解消が今後の課題と言える。今後は活用事例の可視化や業務の精選を組織的に進め、教職員が心身ともに充実して本来の役割に専念できる環境を整えてほしい。その姿が児童へのより良い教育に還元されることを期待する。</p>													
地域																